

高齢者肺炎球菌感染症の定期接種についての説明書

肺炎球菌感染症の概要

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

対象となる方

- ①65歳の方
- ②60歳以上 65歳未満の者であって、心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有するものとして厚生労働省令で定めるもの(身体障害者手帳1級相当)

肺炎球菌ワクチンの変更について

令和8年度(令和8年4月1日接種分)から、定期接種として使用されるワクチンが以下のとおり変更となる予定です。ワクチン変更に伴いワクチン価格が高額になることから、自己負担額も増額になります。23価ワクチン(自己負担額2,000円)を希望される方は3月31日までに接種してください。なお、いずれか1つのワクチンを選択していただくものであり、両方のワクチンを定期接種として接種することはできませんのでご了承ください。

	令和7年度(令和8年3月31日まで)	令和8年度(令和8年4月1日から)
ワクチンの種類	23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン 商品名：ニューモボックス NP(MSD)	沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン 商品名：プレベナー20(ファイザー)
自己負担	2,000円	3,900円

肺炎球菌ワクチンの効果

◎23価ワクチン…肺炎球菌には100種類以上の血清型があり、ニューモボックス NP (23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン) は、そのうち23種類の血清型に効果があります。この23種類の血清型は成人の侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約5～6割を占めるという研究結果があります。「ニューモボックス NP (23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」はこの23種類の血清型の侵襲性肺炎球菌感染症を4割程度予防する効果があります。

◎20価ワクチン…肺炎球菌には、100種類以上の血清型があり、令和8年4月から定期接種で使用される沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、そのうち20種類の血清型を対象としたワクチンであり、この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約5～6割を占めるという研究結果があります。また、沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)は、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

接種できない方、接種に注意が必要な方

予防接種の接種液の成分やジフテリアトキソイドによってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方、明らかな発熱を呈している方、重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方、また予防接種を行うことが不適当な状態にある方等は接種できません。

また、免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹な

どのアレルギーを疑う症状を呈したことがある方、過去に痙攣をおこしたことがある方、予防接種液の成分や、ジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある方、血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている方は接種に注意が必要です。

肺炎球菌ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣（熱性痙攣含む）、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問合せください。

主な副反応の 発現割合	23 価ワクチン (令和 8 年 3 月 31 日まで)	主な副反応の 発現割合	20 価ワクチン (令和 8 年 4 月 1 日から)
5 % 以上	疼痛、熱感、腫脹、発赤など	30% 以上	疼痛、圧痛、筋肉痛、疲労など
1~5% 未満	倦怠感、発熱、頭痛、筋肉痛など	10% 以上	頭痛、関節痛など
1 % 未満	ほてり、鼻炎、悪心など	1 % 以上	紅斑、腫脹など

各ワクチン会社の添付文書及び厚生労働省通知より作成

他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの肺炎球菌ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナウイルスワクチン、帯状疱疹等の他のワクチンと同時接種が可能です。

接種を受けた後の注意点

ワクチンの接種後 30 分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。

注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。

当日の激しい運動は控えるようにしてください。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

制度の利用を申し込む時は、予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村にご相談ください。

よくある質問

Q1. 高齢者の肺炎球菌感染症に対する定期接種は何回受けられますか？

A. 高齢者の肺炎球菌感染症に対する定期接種は生涯で 1 回のみ接種可能です。

Q2. 令和 8 年度からなぜ、定期接種で用いるワクチンを PPSV23(23 価ワクチン)から PCV20(20 価ワクチン)に変更したのですか？

A. PPSV23(23 価ワクチン)と PCV20(20 価ワクチン)はいずれも肺炎球菌に対するワクチンですが、ワクチン接種後の免疫を得る機序が異なっているため、ワクチンに含まれる血清型において、PCVの方が PPSV よりも高い有効性が期待でき、2024 年時点で成人の侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因となる肺炎球菌の血清型のうち、各ワクチンに含まれる血清型の割合も概ね同等程度でした。また、安全性についてはともに特段の懸念はありません。こうした科学的知見を踏まえた国の審議会の議論を経て、定期接種で用いるワクチンが変更となりました。